日本共産党 和歌山市会議員
ひめだ高宏ニュース
NO.1344
'21.6.15

6月定例市議会報告

雨が降らない日が続いています。バイク通勤の私にとってはありがたいことですが、農作物への影響などを考えると、梅雨時に雨が降らないのはどうでしょうか。今月は、11日(金)の私、ひめだの一般質問について報告します。

各種事業の進め方について

私、ひめだの一般質問の1つは、各種事業の進め方についてです。先日、和歌山市図書館として使っているパンダバスが古くなって、新しいラッピングバスに切り替えるという案内がありました。パンダバスは20年近く続けたとのことです。このバスは元々、城北公園の地下駐車場の利用促進のために駐車場とぶらくり丁への送迎を目的に導入した者の利用者もなく計画は、とん挫し和歌山市図書館になりました。計画する時点で十分検討されていないこういう事業が、これから進めようとするものにも含まれていることから市長の基本的な考え方を質問しました。

1つは、計画が定まらないうちに事業用地を先行取得した直川の企業用地やコスモパーク加太、和歌浦のアートキューブなど過去の事業の失敗から学ぶ姿勢があるのかということ。

2つは、城前広場の整備など立案したのは都市再生課で事業実施するのは管財課となり、完成後の振わい創出の事業展開を考えるとそうした部局に和歌山市が要があるのではないかということ。

3つは、スカイタウンつつじが丘テニスコートで観覧席の屋根や管理棟の増設をしようとするなど、計画時点で利用者の意見を聞くことについての考え。

IRカジノについて、県との事前協議に臨む基本的な姿勢と議会との関係について質問しました。

今週のフツーの人々 (その290)

「やぎさん答弁」

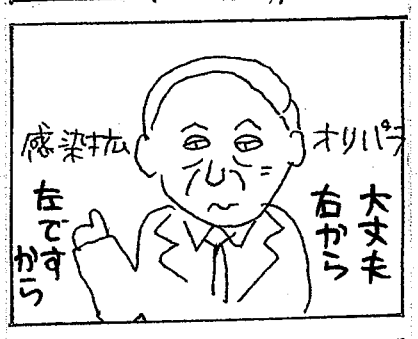
♪しろやぎさんからおてがみついた／くろやぎさんたらよまずにたべた

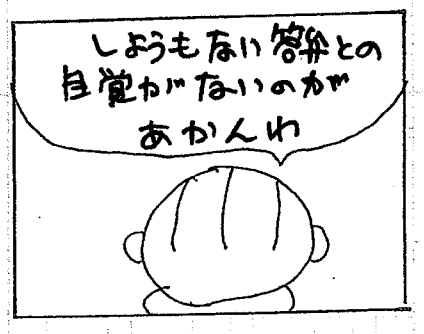
国会のスガ首相の答弁が質問を読まずに食べちゃった「やぎさんゆうびん」(まどみちお作詞)みたいだとして「やぎさん答弁」と名付けたのは上西充子法政大教授。5月10日の立憲民主党・山井議員の「感染の急増や爆発でもオリ・パラを開催するのか」との質問に正面から答えずスガ首相は「感染対策をしっかり講じることが開催にあたっての私の基本的な考え」と繰り返したことにつぶやいたとのこと。党首討論で志位委員長が五輪開催の理由を聞いたのに答えず「国民の命と安全を守るのは私の責務」と言ったのも「やぎさん答弁」だと言われています。

こんな答弁を繰り返すようでは、首相の資格がありません。

ひめだ高宏

フツーの人々 <1127>





障害者福祉について

私、ひめだの一般質問の2つめは障害者福祉についてです。

私は、議員になって初めて障害者問題を知りました。県の保健師として働いていた方から生まれてくる子どもは親の生活に関わりなく3%ほどが何らかの障害を持って生まれてくると教えてもらいました。私はたまたま健常者として生まれましたが、障害者として生まれてもそれは不思議ではなかったということです。ですから障害者問題は他人の問題でなく自分自身の問題だと考えています。

障害者の就労支援施設やグループホーム、生活介護施設建設について、国の補助制度があります。負担割合は事業者1/4、市1/4、国2/4です。毎年、秋に事業者に募集されていたこの制度について、市は「お金がない」との理由で、ここ数年募集をしないので困っているとの話を聞きました。

私は、障害者の施設について基本的には公立の施設が必要だと思います。しかし国の補助制度があるものの民間事業者任せとなっています。国の制度を使えるようにすることは市の責任です。各種施設の必要性をどう考えているのかを問い、補助制度の募集を復活するよう求めました。

市は、重度の障害者へのタクシー券交付事業を肢体・視覚の身体障害と知的・精神の障害の交付枚数に差（30枚と24枚）があることから同枚数になるよう要求。

こんにちは 日本共産党です

改定国民投票法可決

自民、公明、維新の会が推し進めてきた改憲手続きのための改定国民投票法が参院本会議で賛成多数で可決、成立しました。日本共産党は、スガ首相が同法改定は改憲議論促進の「最初の一歩」と公言したように改憲に拍車をかける呼び水だと批判し、一貫して反対してきました。

国民投票法の改定はアベ前首相が固執する9条改憲の企てと一体で進められてきました。加藤官房長官は11日の記者会見で、改定国民投票法成立とコロナの感染拡大と関連させて「緊急事態の備えに関心が高まっている。議論を提起し、進めるには絶好の契機」と発言。コロナ禍に便乗し、改憲を推し進めるなど言語道断です。「アベ・スガ改憲」を許さないため、市民と野党による共同を進めることが不可決です。

還付金サギの現場に遭遇

14日、紀陽銀行屋形支店のATMを使ったとき、となりにいた携帯電話を片手にした年配の女性に行員さんが「どこにおかけですか？」と話しかけ、その電話相手に「どちら様ですか。紀陽銀行です」と言った瞬間に電話が切れたようです。その女性は「介護保険の還付が…」などと言い、行員さんは「還付金サギが増えています」と。みなさんも気をつけてください。

東京・かつしか見聞録その10

日本共産党葛飾区の木村ひでこ区議事務所責任者の浅野さんは民間企業を退職した方で、水戸街道の中川大橋を渡ったあたりにある新宿に住んでいます。木村区議の担当地域では地域支部がそれぞれ定期的に独自の後援会ニュースをつくり配布しています。浅野さんと一緒に新宿の後援会員訪問をしました。ニュース配布が日常的に行われているからか、かなりの密度の後援会員宅を地図を見ることもなく次々と訪問するのに驚きました。浅野さんや葛飾地区委員会のみなさんにお世話になり、楽しいオレグ活動ができました。

わずか10日間ほどの旅でしたが、行きと帰りの両方でPCR検査を体験することもできました。　おわり